



歴史文化資料保全の大学・共同利用機関ネットワーク事業

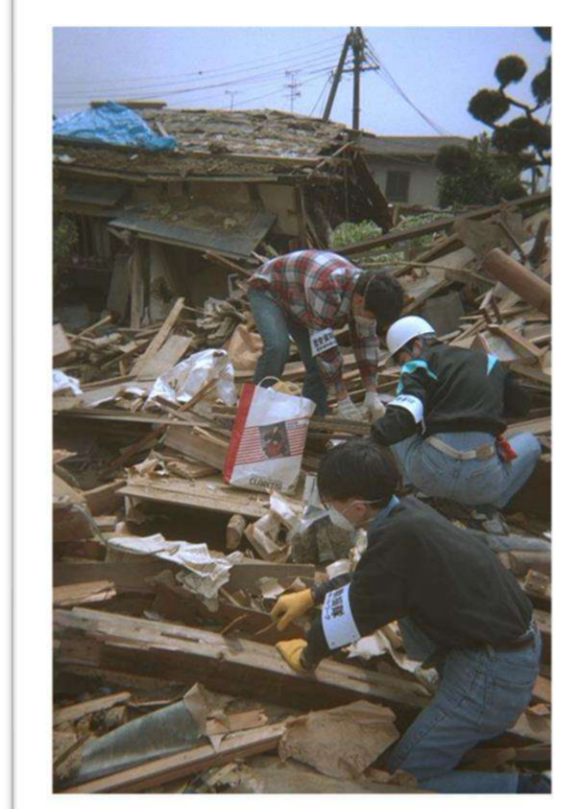
Inter-University Research Institute Network Project to Preserve and Succeed Historical and Cultural Resources

事業の概要

地域社会の変容や大規模な自然災害の発生により、全国各地に伝わる歴史文化資料は消滅の危機に直面しています。特に、所在情報や内容が把握されづらい民間所在の資料については、緊急時における救済と次世代への継承が大きな課題です。

人間文化研究機構では、国立歴史民俗博物館を主導機関として、2018年度より「歴史文化資料保全の大学・共同利用機関ネットワーク事業」を開始し、日本列島各地に伝えられる歴史文化資料の保存と継承を推進しています。

特に、地域の歴史文化資料の調査・保存・研究を推進する大学と連携し、地域社会に伝えられた歴史文化資料の保存・継承に関する研究を行い、平時における地域歴史文化理解の進展と、災害時における資料救済活動を担う大学間ネットワークの充実を目指します。



① 歴史資料ネットワークによる阪神・淡路大震災での資料レスキュー
(左:1995年2月@芦屋市/右:1995年3月@西宮市)



② 2014年8月豪雨で水損した古文書の応急処置
*歴史資料保全ネットワーク・徳島と史料ネットによる
(2014年8月@徳島県海部郡海陽町)



③ 2019年東日本台風で水損した近現代資料の搬出
*後のとちぎ歴史資料ネットワーク・那須資料ネットによる
(2019年11月@栃木県佐野市大橋町)

事業の背景

地域の歴史文化資料の保存・継承活動を進めてきた、各地の「資料ネット」の存在(1995年の阪神・淡路大震災を契機に発足した「歴史資料ネットワーク(史料ネット)」を端緒として全国に拡大/2022年10月現在、全国におよそ30団体が存在)



大学を拠点に、研究者・行政・市民が連携して活動を展開

事業の目的

- ・資料ネット間の交流と連携の促進
→将来の大規模災害に対応可能な「広域連携モデル」の構築
- ・学際研究としての資料保存のあり方を提起
→専門領域を超えた「多分野連携モデル」の構築
- ・神戸大学・東北大学を含めた3拠点を中核とする、地域社会に伝えられた歴史文化資料の保存と継承をとおした歴史文化研究と教育活動の実践と発信

事業の展望

- ・各地域の実情に応じた資料保全のモデル構築への寄与
- ・歴史文化の基盤を研究者だけでなく地域自身も認識
- ・地域における持続的な歴史文化の基盤を形成
- ・地域社会を主体とする地域歴史文化研究の創出

④ 天野真志・後藤真編『地域歴史文化継承ガイドブック』文学通信、2022年



地域の歴史や文化の、何をどう守り伝えていけばいいのか。最新の研究と実践からその方法を紹介する入門書で、当事業の成果物の一つ。歴史文化資料の基礎知識と、現在活動している全国の資料ネットの概要をまとめてあります。本書により、多くの方々が地域の歴史文化に関心を深め、新たな地域の担い手として活躍できるようになるよう、期待を込めて刊行しました。

